

一前々ヨリ相勤來候、稻番又ハ山番等被仰付候、次第急度相勤可申候御事。

一柔和ヲ專一トシテ、禮儀ヲ以テ相交、喧嘩口論大酒醉興之振舞相慎、別而主人ニ忠ヲ盡シ、父母ニ孝行ヲ專ニ仕、夫婦兄弟朋友睦敷、家業ヲ專要ニ仕、決而奸曲ケ間敷儀仕間敷候御事。

右御條目從古來、毎年被爲仰渡候通、一々承知奉畏候、然ル上ハ御捷道急度相守可申候、少相違無御坐候、若違背候者、如何様ノ越度ニモ可被爲仰付候、仍之御請連印一同証文差上候處、仍而如件。

文政三庚辰年六月、

山主、御役人衆中、

五人組頭、

前書御條目通、一々吟味之上、一山一同連印取揃奉指上候處、少モ相違無御坐候間、與書印形仕奉差上候以上。

年寄役、

大沼山主、御別當、

御本坊所、

同年十月、代官池田仙九郎、吉川村本年度ノ租稅ヲ割附シ、之ヲ納濟セシム、諸村之二準ス。

辰年貢可納割附之事。

當辰カ申迄五ヶ年定免、

一高四百八十二石三升四合、

取米合百二十九石八斗一合、

外ニ烟ノ取米一斗三升七合、

定納物、

漆代、

蠟代、

薪代、

青苧代、

秣場役、

酒造冥加永、

御傳馬宿入用、

六尺給米、

永壹貫二百五十九文七分御米藏米入用、

納合米百三十一石二斗四升八合、

文政三辰年十月、

池田仙九郎。

八四

同四年三月ヨリ、五月ニ亘リテ、雨降ラス、六月一日初テ雨降ル。

一文政四年巳三月々、五月卅日迄、雨ふらば、六月一日々ふり申候、

同五年十一月、寒河江附、楯南村傳五郎、柴橋附伏熊村作十郎等、公領貢米大坂江戸廻漕延着ニ關スル、用捨米約定書ヲ交換ス。

儀定爲取替一札之事。

一去ル文化九申年々、追々出羽國御料所村々、江戸大坂御廻米、船中欠請負御仕法御改正有之内、夏土用過ニ至、積入等之儀有之間敷事ニ付、右儀定取替之廉々ニも書載無之、然ル處、近年之廻船延着致納所着船有之候而も、右用捨米取計方無之、勿論向後、右躰延着之義者、有之間敷候得共、爲念今般對談之上、熟談仕候處、左之通。

一夏土用過、十日迄積入候分、土用中積入同様用捨米九合之積、尤万一天災ニ而、乘後十月ニ

入着仕候、船之分ハ壹升四合之積を以、差引勘定可致究之事。

一夏土用後、十日過、御米積入出帆之分ハ、納所着岸遲速ニ不拘、以來用捨米八合之積リヲ以、取引勘定可致候、勿論風順惡敷、譬翌年ニ至、納所江着岸有之候共、右八合之用捨米を以、差引勘定可致究之事、右貳ヶ條用捨米之儀者、文化九申年、御改正儀定を以、是迄取計候通極之事。

右者出羽國、御代官所、一統江戸納庄屋、并廻船方出合對談之上、此度前書之通双方熟談書付爲取替候ニ付、向後違乱致間敷候、爲後證、爲取替一札仍而如件。

田口五郎左衛門様御代官所、

尾花澤附総代、

林崎村

與五右衛門、

文政五年十一月、

右同斷宮崎附総代、

道満村、

総

助、

右同斷東根村総代、

野田村

新

池田仙九郎様御代官所、  
寒河江附総代、

樋南村

傳四郎、

右同断柴橋附総代、  
熊伏村作十八郎、

筈屋久兵衛殿代、

祐助殿、

細屋勘左衛門殿代、

万三郎殿、

廣島屋平四郎殿代、

清吉殿、

同六年四月、左澤領、本月布村、大鉢村ト山林境界ヲ論諍ス、橋上村久右衛門、間ニ居リ之ヲ和解シ因テ條約ヲ交換ス。

山論ニ付、内濟双方取替證文之事。

一論所山林境之儀、

大鉢久保前澤付東方ハ、みね片境、南ハ菅田上小峯迄、境北ハ田向

下もハはけ大鉢境也、右境之外本月布村支配。

右者私共両村、去々年中、自山林及出入候處、其段双方自御訴訟奉上候ニ付、既ニ當四月三日、山論所江御見分として、御役人衆中様、御出役ニ可相成候趣を以、取扱人橋上村久右衛門立入、此度厚ク仲人役致吳候ニ付、右境之通双方聊相違無御坐候、依之、双方取替證文、爲後證如件。

大鉢村御百姓代

林

藏、

右村長百姓

庄

助、

右村組頭

左

吉、

右村名主

庄

三郎、

本月布村御百姓代

六郎

兵衛、

右村長百姓代

長

右村組頭

吉

十郎、

右村名主

西村元扱人

兵衛

總門

新好吉村名主新助代橋上村  
證人喜藏橋上村元扱人  
久右衛門

本月布村

御名主

組頭

總御百姓中

吉村勝重

三

吉

貞

吉

前書之通、右兩村山論一件之儀も、橋上村久右衛門扱を以、表書之通双方境相立、相濟見届、  
奥印差出候以上。

大庄屋

大泉次郎右衛門印。

同七年八月十五日、大風雨、最上川洪水、被害多大ナリ。

一文政七年八月十四日、十五日、大雨風ニ而所々大水ニ而川向イ山形々大石田迄、大キニそ  
んノ申候。

按村山地方ノ被害、記録ノ徵スヘキヲ得ス、因テ上流置賜地方當時ノ被害ヲ採錄シテ、參  
考ニ資ス左ノ如シ。

十五日大風雨ニ付、川々大水、松川尤甚シ、小野川埋沒ヲ始、諸村川通皆水難流家卅六、流死  
七人、橋九十八、堰七十六、流失損毛高三万二千石餘。

同八年、禾穀年セス、米價壹俵金壹分ト錢二百文ニ騰ル。

一文政八年惡作ニ而、米壹俵代壹分ト貳百文程致シ。

同年十月、今茲凶作米價騰貴シ、細民ノ困難センコト慮カリ、御料私領相協議シ、釀酒  
ノ石高ヲ減少シテ、三分ヲ減少シテ、三分ノ一トナス。

西年田方違作ニ付、當郡御料所御私料爲申合之上、無株之分ハ堅ク止、株高所持之面々ハ、  
舊高三分一造之外、過造致候間敷候、右ニ付掛御役人差出相改候筈候間、心得違無之様、可  
申達、尤去申年造込候酒、他所出し等堅可爲停止候。

附酒造人共、是迄造石高、横折ニ認可差出候。

右之趣、各扱下不洩様、急度可被相觸候。

西十月、

役所。

町本郷組北郷組川行組、

右組々大庄屋。

同九年三月、食鹽騰貴シ、一駄ノ價金三分ト銀八九匁ニ至ル、諸物價皆騰貴ス。

一文政九年戊年三月より鹽段々引上、壹駄ニ付三分ト八九匁位、當年様々日々ニ直段引上ケ候ハ前代無之候。

同年十月、去歲、新庄領葉山別當大圓院御領、田代村百姓九郎左衛門等、同山境內ヲ侵害シ、且ツ樹木ヲ濫伐セルコトヲ、柴橋代官池田仙九郎ニ訴フ、是ニ至リ、御料私領両代官協商シテ之ヲ和解ス。

乍恐以書付御訴證奉申上候。

御朱印地、

羽州村山葉山執行別當、

天台宗大圓院、

昌隆煩ニ付、

訴訟方、代兼役人、

吉田左彌、

葉山分江踏込強勢を以伐木奪取。

并鹿野畠仕付妨出入。

當御支配所、

田代村名主、

相手方 次郎兵衛、

同村百姓、

仝 九郎左衛門、

右訴訟人奉申上候、當山

御朱印、高五石六斗、吉川村之内、山林之儀者、葉山一字を難有頂戴仕、境之儀ハ四里四方大圓院全致支配、寺中之衆徒拾貳ヶ坊、并近郷ニ有之末派修驗、八十三ヶ寺を伴ひ、右於山林、爲

天下安全、古來より立峰修行致相續、來然ル處當二月中、境宇松山與唱候場所ニ而、松木字前立關後口玄關與唱候場所ニ而、松杉剩立峰之籠堂與申処迄、踏込檜四本相手九郎左衛門、先達大勢參リ強勢を以、致伐木候分九四拾本程奪取、誠傍若無人之致方與奉存候、勿論當山分之内、大森與唱候処より籠堂邊迄、新庄領分湯野澤村、岩木村兩村之もの共小芝薪木伐取候節者、山役永往古より當院納來、全葉山境內ニ相違無御坐候、且當山之内、長坂道之邊を、白岩村之技郷、畠與申所之もの共、鹿野畠を切發し、粟蕎麥等、蒔付來候ニ付、傳馬人足當院

江勤來リ然るニ相手次郎兵衛、右地面江申分有之候ハ、當山江可及掛合ニ之處、去々未年々追々耕作蒔付いたし候者共江差障リ來ント横道之致方、何とも難心得、畢竟右之もの共儀者、御料百姓ニハ候得共、當院師壇之間柄故、格別致助成、爲致相續來候得ハ、沙門之境界ニ而不便ニ存罷在、山分之地面江差障リ有之候而者、旁以不法之始末、難捨置、無據今般御訴訟奉申上候、何卒御慈悲を以、相手次郎兵衛、九郎左衛門、被爲召出、御吟味之上、當山林伐木メ四拾本程奪取候分相戻シ、以來強惡之慟不仕、并鹿野畑蒔付江差障リ不申様被仰付、御朱印道無難、相續成行候様被成下置候ハ、難有仕合奉存候以上。

葉山大圓院、

昌隆煩ニ付、

代兼役人、

訴訟方吉田右内、

末派総代、

普門院、

池田仙九郎様、

柴橋、

御役所。

一筆致啓上候、寒冷御坐候處、彌御堅勝被成御勤、奉珍賀候、然者先頃者、其御陣屋江御伺旁

罷出候處、御用御繁多ニ被爲在候、御中、每度不相替、蒙御懇命、殊ニ長々之逗留ニ罷成、別而御厄介之段、御禮之程難謝盡、万々忝仕合奉存候、其砌者貴様御長屋江も、度々以參預御世話、其上何寄珍敷御茶被掛貴慮、御厚志之段、不淺于今相樂罷在、千々忝仕合奉存候此由御老母様御内儀様へも、同様厚御禮被仰通被下度、奉賴候。

一仙九郎様江、御内密ニ御願奉申上候、葉山伐木一件之儀、段々厚以思召、御内々御取扱被成下候趣共、御叮嚀之御挨拶被下置、誠ニ以難有仕合奉存候、右ニ付、貴様ニ者無御腹臓、御懇情御取合、被下候段別而不淺忝次第奉存候、依之歸宿後早速御禮旁可得御意答之處、主用甚取込罷在、乍存御挨拶及延引候條、何分御用捨可被下候、尤御談合申候通、大圓院呼出、所存相尋、其上ニ拙者共存寄理解申聞候、然ル處此上ハ前々之通、境內江以來決而不伐入様ニ相成候ヘハ、後而彼是申筋一切無之候間、幾重ニも宜敷取計候趣共、委細申聞候付而者、別紙口上書差出候ニ付寫取候而掛御目候、右旁以其御料所、田代村の方いつせニも可然御取扱被下度、奉希候、猶亦葉山山境内、凡之所申進候様、御取合申候間、一通相認懸御目候、宜様御扱可被下候、右御禮旁爲可得御意、如是御坐候、恐惶謹言。

十月廿八日、

大田原慎藏様、

倉知十郎右衛門、

覺。

一小ハケ サカイ、  
一シメカケ サカイ、

但長坂道世上ニ唱候シメカケ、近年迄檜ノ木様のもの有之候處、今ハ無之由。

一大森 ミネサカイ、  
但本堂より大森峰迄三十丁十壹間。

一古柳 サカイメウチ、  
一地藏森 ミネサカイ、

但間數ハ右大森與同斷。

右凡之所相認掛御目申候、其御料所入會ニ相成居候間、其所者、兼而御含可被下候、御内々御談合申候通御取計、御都合次第添翰差出候、御案内拙者處迄、内々ニ而御沙汰被下度奉希候、尤添翰指出候節ハ、役場より差出可申候間、左様御承知可被下候、右等之趣御内々得御意候、何分宜御取計可被下候、奉賴候以上。

此度御呼出ニ而罷出候處、兼而申上置候、去ル酉二月中、并當春田代村百姓九郎左衛門始、大勢罷越、強勢を以致乱入、當山境內、字前立關、後立關與唱候場所ニ而、松杉伐取、猶又松山立峯之籠堂與申所迄踏込、檜四本伐取候ニ付、一山之挺も不相立、猥ニ相成候ニ付、不得止事御訴訟申上候一件之儀、段々厚御理解之趣、委細奉承知難有仕合奉存候、以來境內江不

伐入様相成候ハ、御理解之御趣意ニ隨ひ彼是申上間敷、何分以 御憐愍、宜様奉願候、爲念如件。

文政九戌年十月、

大圓院、

昌隆印、

井關内藏助殿、

倉知十郎右衛門殿、

同十年七月、寒河江柴橋諸料、去歲ノ貢米ヲ、酒田港ヨリ西海ヲ經テ江戸ニ運送ス。

出羽國去戌年揚成、當亥西海江戸御廻米送狀之事。

楠櫛柵三造、

廻船用達。

亥三月晦日、大坂川口出帆、

江戸屋久兵衛差配。

同五月廿五日、酉刻酒田入津、

大坂、日野屋九兵衛船、

同七月四日、巳刻同所出帆、

沖船頭、助三郎、

但シ、船頭水主類共。

羽州村山郡、

百姓上乗、常吉。

一本欠合米九百四石六斗九升七合三勺、  
此俵貳千四百四十五俵、四升七合三勺、

此該譯、

俵印●印 積合、

米八百五拾八石三斗貳合三勺、本米、

此俵貳千三百拾九俵貳斗七升貳合三勺、

此運賃金百七拾五兩三分ト永貳百貳文、  
但米百石ニ付金貳拾貳兩貳分

内、

金八拾七兩三分、

御前貸大坂渡シ、

金貳拾九兩三分、

御中貸積所渡シ、

金五拾八兩三分永貳百貳文御後渡江戸渡シ、

米四拾六石三斗九升五合、欠米、

此俵百貳拾五俵壹斗四升五合、

此運賃金九兩貳分永拾壹文、

内、

金六兩、

御前貸積所渡シ、

金三兩、  
但シ差配料壹割増共江戸ニ於テ可相渡之分、

●印、

米五百壹石七斗七升七合、柴橋村、

此俵千三百五拾六俵五升七合、

内、

米四百七拾六石四升五合、

此俵千貳百八拾六俵貳斗貳升貳合、

米貳拾五石七斗三升貳合、欠米、

此分運賃金三兩貳分、

積所渡シ、

同金壹兩三分永二拾五文一步江戸渡シ、

(以下、  
中略)

八俵印、

米四百貳石九斗貳升三勺、寒河江附、

此俵千八拾八俵三斗六升三合、

(以下、  
中略)

船中御條目、

壹通、

浦觸、合八百三十六千三合、同、  
日帳、合武七百三合、卷一冊、

御用狀、

一封、

掛旗、

百枚、

外、

本欠米四百九拾貳石貳斗三升七合、平岡彦兵衛様々積合、右者池田仙九郎御代官所、羽州  
村山郡柴橋寒河江陣屋附村々去成御揚成、當亥酉海江戸御廻米、船方送狀引合、於同所、酒  
田上乗船頭爲立會、貫目樹廻ノミ相改、書面之石數船足極印限積立ニテ、今四日已刻出帆申  
付候、御地着岸之上、御請取可被成候、仍送狀如件。

文政十亥年七月四日。

羽州酒田港出役、

同人手代、宮部潤八郎。

江戸表貳番町法現坂之上、

池田仙九郎附手代、

川村左源太殿、

高橋古助殿、

按、御米漕運ノ事ハ、幾多ノ變遷アリテ、之ヲ專攻セハ、頗ル往昔漕運ノ狀ヲ知ルヘシ、今僅ニ其一二ヲ採錄スルノミ、若シ之ヲ專攻セント欲セハ、頗ル編纂ノ歲月ヲ要セサル能ハス故ニ省略ス。

同年八月、白岩村臥龍橋成ル、代官池田仙九郎、其僚屬相澤泰昌ヲシテ架設セシムル所ナリ、高サ四丈五尺、廣サ六十尺、長サ一百餘步、幕府倉粟並ニ材木ヲ賜フ、泰昌甲斐末木ノ人ト云フ、事ハ臥龍橋碑ニ詳ナリ。

同十一年八月、幕府大沼山大行院ニ、出羽一國限り三ヶ年間勸化ヲ許可シ、稻荷社ヲ修理セシム。

羽州村山郡大沼山、  
稻荷別當大行院。

右大沼山、稻荷本社末社、其外御祈禱所等、修覆爲助勢、出羽一國三ヶ年之内、勸化御免被仰出也、大行院役僧、當子九月より、來卯八月迄、御領私領寺社領、在町共可致巡行間、志之輩物之多少ニよらば、寄進をへきもの也。

文政十一年戊子八月、

堀 大和守、

太田攝津守、  
松平伊豆守、

土井大炊守、

出羽國、

御領私領寺社領、

諸寺社、

在町中。

同年九月、村山地方米穀不熟米價騰貴シ、九月ニ到リ米壹俵(五升)金壹分錢八百三十文ニ騰ル。

一文政十一年殊之外惡作ニテ、八月より直段引上、九月より米壹俵ニ付、壹分六百文位、新米壹分三百卅文。

同年十一月、酒井忠良、印符塙ヲ其領左澤ニ輸送シ、問屋三戸ヲ置キテ之ヲ賣却セシメ、價額金百両月ニ金一両ノ利子ヲ加ヘ、正月八月二期ニ之ヲ決算セシム、他ハ之ヲ濫賣スルコトヲ禁ス。

左澤町、

鹽問屋、勘兵衛、助

近年御趣意有之、鹽高直ニ不相成様、御印符鹽爲登方之儀、月割を以爲積登候間、此末々御

印符鹽望之者ハ多少ニ不限、右問屋三人之前江申入可致注文事。

但他鹽之儀ハ役所ニ而取扱不申、是迄之通、勝手次第可爲事。

一御印符鹽之儀、若問屋三人之手を離レ、直注文いたし、弁理之ものも有之候ハ、其段役所ニ願出、添翰持參仕、松山表へ罷下リ可申立候、松山より酒田問屋江添翰を以差圖可致候間、此段心得勝手次第可爲事。

一鹽代金之儀者、八月正月貳季勘定候間、無滯役所江相納可申事、尤鹽代金利金足ハ、金百両二付壹ヶ月壹両ツ、之定候事。

但前金差出候歟、又者勘定月前上納いたし候向ハ、定之利足勘定月ニ至リ、相返候事、此義も心得、都合次第可爲勝手事。

一鹽高懸リ金ハ、酒田問屋より飛脚爲登候節可相渡事。

但万一不繩合之節ハ、定之利足ヲ加、月後勘定いたし候事も申立ニより、聞濟相成可申事乍然、前條二季勘定之節ハ、是非皆濟可致事。

右者、万一千鹽飢饉有之節之爲、御印符鹽ニ而御領分中江爲差登之事ニ候間、御趣意難有、一同致承知、望之者ハ御印鹽注文可申出候。

右之趣、今度改而御達候間、各扱下村々江篤與申合、御印符鹽注文申入候様可被相觸候。

十二月、

役所。

十二 大庄屋中

字文選今更始而稱其號聞者過不休公耳猶與申吟聲與書詩文申入鄉縣可謂琳瑯也  
一問知承蒙望之矣ハ暖與應答文詞申出矧

亦嘗試一躬贈贈亦多有遺稿申出其上  
事半熟識者二年頃家之酒一張張者皆百貨車  
同人一不無合口酒ハ家之味以マ誠良是醉家ノ式ノ刻序を申立ニ止モ酒醉林苑百申

子醉高懸又公ハ醉田間屋も歌詞發登舞酒河跡御事

二類の蓋心音歌合大都百首傳手抄。歌詞引十九首を大盛歌の付後房六百丈文也此歌詞  
三馬首金盞出劍城又香蘭家具酒土瓶に於て對向ハ家之杯風趣家日ニ至セ地底舞草也  
詞雲社堂火自登而火也志氣舞事。其餘之歌詞也。前題之歌詞也。前題之歌詞也。前題之歌詞也。  
人之體分金盞歌外人只五且酒參禮主對酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒

哉對心相禮半大張可微津。

二題出添傳持參升外山旅ハ酒可大張申立對酒山也酒田間風也酒詩也以歌詞可舞詩也  
一題酒歌聲之聲音開氣三人之平少樂也酒詩文之詩也。其餘之歌詞也。其餘之歌詞也。  
其餘之歌詞也。其餘之歌詞也。其餘之歌詞也。其餘之歌詞也。其餘之歌詞也。其餘之歌詞也。

編年西村山郡史卷之六終

202  
341

